



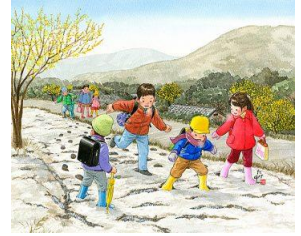
人を育て 地域を創る

玉名市地域学校協働本部
事業だより第55号
令和4年2月2日

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

雪とけて 村いっばいの 子どもかな (小林一茶)

この辺りは小林一茶が暮した北信濃ほどの雪は降りませんが、寒さが緩み、春の日を浴びながら子供たちが元気いっばい遊んでいる様子を思うと心弾みます。活気が満ちてくるようです。ただ、この2年間は雪でなく新型コロナウイルスに行動が制限されてきました。人流も3密も気にすることなく伸び伸びと暮らしたい、マスクをはずして素顔で人と出会い語りたい、そして1日でも早く子供たちの歓声が街に響きますように！そう願っています。



さて、令和3年度は次の2点を掲げてスタートしました。昨年度末に作成した「令和2年度玉名市地域学校協働活動実施報告書」から見えてきた課題でした。

- ☆本事業を知っていただく！そして、力を貸していただく！
- ☆年間計画が必要だ！そして、見通しを持って事業を推進しよう！

そして、今年度より市内全小・中学校に学校運営協議会が設置されたことを受け、次のことも呼びかけてきました。各校区の現状はいかがでしょうか？

- ☆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進しよう！



今年度も終盤を迎えました。「学校と地域との連携・協働状況の確認」の様式をお届けしますので、それぞれの立場で今年度を振り返ってみてください。

	チェック項目	○ △ ×
1	地域と学校がともにビジョンやめざす子供像を共有する熟議等を行っている。	
2	地域連携・協働活動に関する年間計画が作成されている。	
3	教職員が地域連携や協働活動の意義を共有する場がある。(研修や職員会議等)	
4	地域学校協働活動推進員との話し合いや情報共有がなされている。	
5	ボランティアルームの設置や教職員への周知など、ボランティアの活動環境が整っている。	
6	活動が子供たちにとって、体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動になっている。	
7	ボランティア募集や学校の教育活動、ボランティア活動の様子を情報発信している。	
8	活動継続のために、振り返りや情報の蓄積を行うなどチーム体制づくりが行われている。	
9	活動の記録を取りまとめ、次年度の年間計画の見直しに生かしている。	

=子供は地域の宝です！日本の宝です！=

「事業だより第53号をコピーして見守りボランティアの方々に配っていいですか？」というお尋ねがありました。勿論OKです。築山小校区で毎朝児童の登校を見守ってくださり、本事業の本部運営委員も務めておられる方からです。話を進めていきますと、学校の先生方との強い信頼関係、子供たちから寄せられる感謝の言葉やお手紙の有り難さと温かい心のつながり、見守り活動をされている他の方々の存在と頑張り・・・そして、最後に「子供は『地域の宝』です。地域で育てていきましょう。そして子供は『日本の宝』です。」と話されました。うれしくなった私は、すぐ校長先生に電話をしました。

…このような波紋が、重なり合い、増幅し、大きなうねりとなっていきますように。

=年度末総括のお願い=

2月18日(金)締め切りで、「令和3年度地域学校協働活動実施報告書、地域学校協働活動の取り組みの成果と今後の課題、ボランティアバンク」のデータ送信をお願いしています。ご多用とは存じますが期日までの提出をよろしくお願いいたします。

…今年度の総括が来年度へのスタートです。